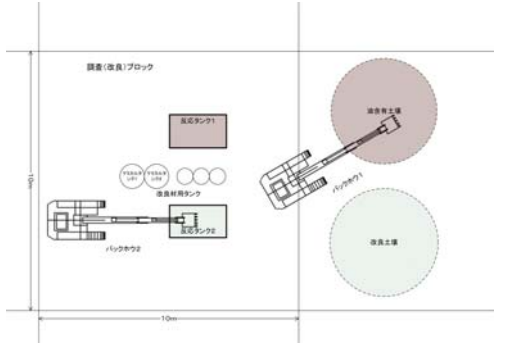
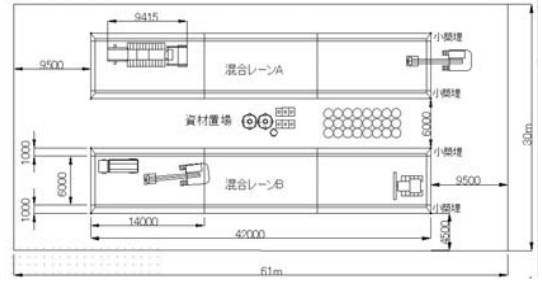
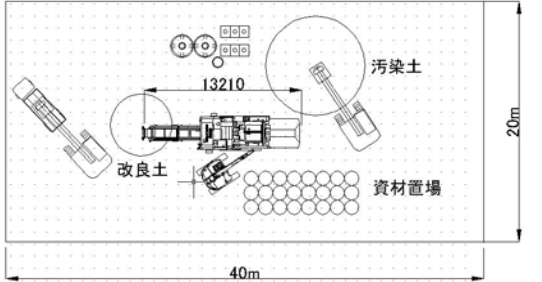
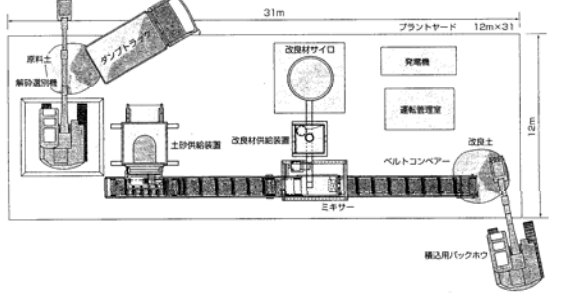




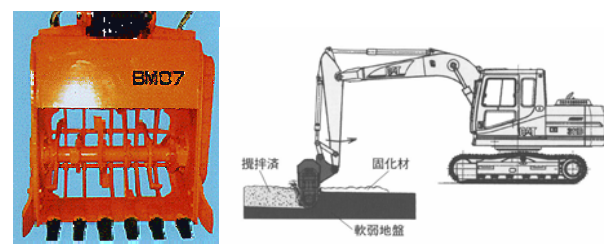

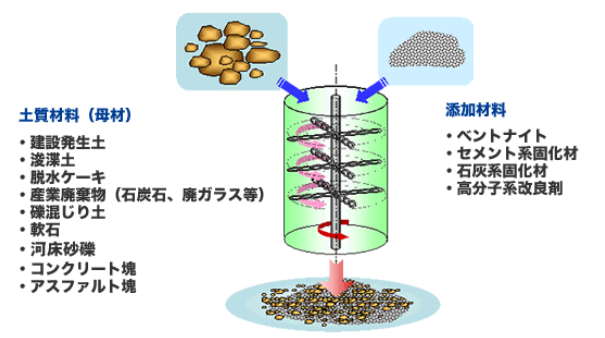



別添資料

対象土量および汚染状況等サイト条件に応じた混合機材の選定

混合法	反応タンク	スタビライザー	移動式混合機	仮設プラント
対象土量m3	2,000m3 未満		1,000m3 以上	
ヤード面積m2	10m×20m	30m×60m	20m×40m	12m×31m
工法の概要	10～15m3 の水タンクに汚染土壌を投入し、設計に従って改良材を順次添加し、バックホウで丁寧に攪拌混合する。2セットで効率的な処理ができる。	6m×50m 程度の改良レーンを設置して、幅・延長・厚さを一定にして汚染土壌を敷均し、設計に従った改良材を添加、スタビライザーで攪拌混合。複数レーンにより処理量を増加できる。	土壌混合機のバケットに汚染土壌を連続的に投入し、ホッパーから設計に従った改良材を添加して混合する。必要に応じて液体散布装置も装着できる。	土壌混合機のバケットに汚染土壌を連続的に投入し、ホッパーから設計に従った改良材を添加して混合する。改良材をサイロ式にすると密閉システムとなり、粉塵発生が抑制できる。
標準配置図				
施工概況				
主な重機構成	バックホウ 0.5 級 2 台、10～15m3 水タンク 2 基	スタビライザー 1 機、バックホウ 0.8 級 3 台、ブルドーザ 7ton1 台	自走式土壌混合機 1 機、バックホウ 0.8 級 3 台、	プラント 1 基、バックホウ 0.8 級 3 台
標準人員構成	管理 1、普通作業員 2、特殊運転手 2	管理 1、特殊作業員 1、普通作業員 3、特殊運転手 5	管理 1、特殊作業員 1、普通作業員 3、特殊運転手 3	管理 1、特殊作業員 1、普通作業員 3、特殊運転手 3
処理量 (m3/日)	60～80m3	150～300m3	120～180m3	100～150m3
材料費 (m3)	3, 150～3, 400 円/m3			
工法使用料 (m3)	400 円/m3			
工費 (m3)	材工共に 15,000 円/m3 以内	材工共に 12,000 円/m3～8,000 円/m3 (改良工のみ、土量・搬入条件・ヤード条件によって異なる)		
適用条件	狭隘な土地、大型機材の搬入が困難な土地、対象土量が少ないサイト	改良ヤードが広い土地、対象土量が多い場合	改良ヤードが比較的狭い土地、移動式のため全面改良する土地	居住環境が近接する土地で騒音・粉塵対策に細心の留意を要する場合
適用困難・留意点	対象土量が多い場合、工期が短い場合	居住環境が隣接する粉塵・騒音対策	居住環境が隣接する騒音対策、高含水土壌	全面改良の場合プラント移動が必須
特殊なサイトへの適用機材	パワーショベル or パワーブレンダー	三軸攪拌混合機	ツインスター	建設汚泥固化ユニット FBF
				
適用条件	小規模&浅層サイト	小規模でかつ深部汚染サイト	礫混じり粘土質	高含水土壌&強度改良